

21 世紀のインスリン治療戦略・ 多様なインスリン療法を目指して

第3回先進インスリン療法研究会
(甲府市, 2003 年 10 月 25 日)

古家 美幸

2003 年 10 月 25 日, 第3回先進インスリン療法研究会が甲府市のベルクラシック甲府で開催された。この研究会はインスリンポンプ治療研究会から発展したもので, 主に CSII を中心としたインスリン療法の最新情報を得ることができるため, 毎年楽しみに参加している。

今回, 最も印象に残ったのは米国で糖尿病診療に携わっておられる大塚孝裕先生 (Loma Linda University) の特別講演であった。テーマは「米国における CSII および連続血糖モニターの臨床応用の実際」であり, CSII 療法のノウハウを具体的な症例を呈示しながらわかりやすく解説された。その内容は CSII 療法における, 1) 炭水化物カウンティング (Carbohydrate counting), 2) 基礎および追加インスリン投与量の設定方法, 3) 72 時間血糖持続モニターや GlucoWatch (採血不要の腕時計型血糖測定装置) に関するものであった。その中で炭水化物カウンティング (食事に含まれる炭水化物量を計算

する方法) は, 追加インスリン量の決定に必須であると強調され, Insulin/Carbohydrate Ratio (1 単位のインスリンが何 g の炭水化物に対応するか) や Insulin Sensitivity Factor (1 単位のインスリンがどれだけ血糖値を下げるか) を用い, 目標血糖値に近づけるためのインスリン量を決定する方法について教えていただいた。

米国では保険診療上, 外来で CSII 導入を行うため, 患者に宿題シートを渡し, 記録してきた血糖測定結果をもとにインスリン量を調整していくということであった。この方法はやや複雑な部分もあり, この宿題をすべての患者がうまくこなせるのか, 少し不安に感じた。しかし, いずれにせよ個々の患者に応じて, これらの方法をうまく活用しながら, try and error で調整していくことが重要であると思われた。またこの他にも, わが国で近々発売が予定されている超遅効型インスリン製剤の特性や使用法など数多くの情報を得ることができ, たいへん勉強になった。本研究会は, 2004 年は奈良で開催される予定である。■

ふるや みゆき
天理よろづ相談所病院 内分泌内科
(〒 632-8552 天理市三島町 200)